

海外派遣留学プログラム報告書 (報告期間：2022/08/16～2022/9/26)

1. 勉学の状況

はじめに簡単な自己紹介をします。国際教養学部4年で、建築学を中心にいままで学修してきました。スペインの建築家アントニ・ガウディの存在、災害との関連性のある地域、そしてバスクという特殊環境に魅了され、バスク州立大学建築学部に留学することに決めました。

それでは本題に入りたいと思います。秋学期が始まる前に、8/29 からスペイン語インテンシブコースが2週間オンラインにて行われました。14:00 から 19:00 までほぼ休憩なく行われていたため、正直途中で集中力が切れてしまっていた学生がほとんどだったように思えます。加えて、本コースは2週間かけて行われていたのですが、建築学部の授業が本コース2週目から始まってしまい、途中で出られなくなりました。これにより出席規定（全体の80%以上参加すること）を満たせなくなりましたが、そういう学生向けに別途テストが救済措置として設けられていたため、一応なんとかこなしはしたはずで、という感じで、若干満足度の低いコースではありましたが、それでもとりわけ最初の1, 2日目はスペイン語を話す良い訓練になったので、意義はあったと感じています。

そして、9/5 に建築学部のオリエンテーションがあり、いよいよ秋学期がスタートしました（日本と異なり、学部ごとに学期開始時期が微妙に異なるので、要注意です）。いくつか履修登録をしていたのですが、最終的に履修を決めたのは、“Urban Planning III”, “Project III”, “New Ways of Building”の3つ（すべて英語開講）、そして、語学のCastellano(Advanced:B2, いわゆるスペイン語), Euskera(Beginner:A1, いわゆるバスク語)の2つ（すべてスペイン語開講）を合わせた5つです。日本の大学の感覚だと「たったの5つ？ 少なっ！」となるかもしれませんが、1つの授業の重みがスペインは全然異なり、Min. 3時間、Max. 6時間と長いです。さらに、他言語での学修、日本とは全く異なる建築志向に苦戦を強いられていますが、今のところなんとかしむとくついていっています。

また、こちらの授業は基本的にグループワークが多く（たまたま日本語の刺青をするほどの日本好きの現地学生や千葉大学に派遣で来てすでに友達になっていた学生など、チームメンバーに関しては非常に運が良かったです）、自分の苦手分野をカバーしてもらえたり、そこで人間関係を構築する良いチャンスにもなるので、大変ではありますが全体的に楽しいです。先生方も距離感が近く話しやすい場合が多く、授業の雰囲気は非常に良いです。AutoCAD, Rhino, Photoshopあたりは使えておくと授業が幾分楽になるので、ぜひ勉強してから渡航しましょう。

2. 生活の状況

これだけは言えます。寮や居住先は渡航前に、なるべく早い段階で決めておきましょう。これまでの人生の中でも上位に入る苦しい経験をしました。バスク州立大学の方から「渡航後3日間で協力して一緒に探します」というような旨の証明書をいただくとありますが、Donostiに居住する場合は少なくとも、住宅の需要と供給が崩壊しているので、本当に気をつけてください。

さて、ここから少しスペイン到着後の生活を少し振り返っていきます。実は、私はスペインにはスペインから派遣留学生として千葉大学に来ていたスペイン人の友達と一緒に渡航しています。そのため、（20時間を超える移動時間を除いて）比較的ストレスフリーで問題もあまり発生せずに渡航することができていました。UAE 経由でマドリード到着後は、彼女の家族が空港に向かいに来ており、そのまま彼女の地元である Asturias に向かい、数泊させていただき、Donosti にも車で送ってくださるという、本当に至れり尽くせりの感動と感謝でいっぱい時間を過ごしていました（個人的に、スペインの知り合いは「おもてなし」のレベルが日本より数段高い気がしています。私のように申し訳なくなってしまうような人間は、ちゃんとしたお土産やお礼ができるものを十分に持っていくことをお勧めします）。Donosti に着き、そこから地獄の始まりでした。冒頭の文章で察して欲しいのですが、要は家が全く見つからず、次

の日の宿はどこにすればいいか、どうやって生きていこうか、という状態に陥っていました。私の渡航時期はまさに旅行のハイシーズンであり、家が見つからないという問題に加え、ホテルすらもほとんど埋まっており、空いていても非常に高額なところばかりでした。そのような状態で葛藤し続けること約1週間、千葉大学留学生課、そしてその影響で非常に協力的になっていただいたバスク州立大学留学生課の方々、そして事前に応募していた大学のバディ、その他元々いた現地の友達等、本当にいろんな方のおかげで、それでも奇跡的と言える類で（9月のこの時点でまだ滞在先が定まってない学生も複数知っています）、家を見つけることができました。なので、意地でも肉体的にも精神的にも追い込まれる前に家を事前に見つけておきましょう。

若干ネガティブなお話になってしまいましたが、家さえ見つければ、Donostiでの暮らしは最高です。円安（現在1€=¥140前後）の影響は正直大きいのですが、それでも若干日本より物価が高い程度で（ものによっては日本より安いものもあります、特に交通手段）、基本的に質も高く、街もコンパクトで、そのほか諸々の条件で本当に過ごしやすいです。先日、国際映画祭も開かれ、スペインの世界的大女優”Penerope Cruz”を超間近で見かけることができました（ちなみに去年は”Johnny Depp”が来ていたそうです）。日本の映画も出展しており、今年は監督賞を受賞されていたり、是非9月中旬ごろにスペインに来る機会があれば遊びに行ってみよう。

最後に言語について。英語に関して、日常生活において、日本とあまり変わらないレベル（つまり一般人はほとんど話せない）と思っておいていいと思います。バスク大の学生は千葉大の学生よりは話せる印象です。また、留学生はスペイン語圏から来た人でも基本英語ができます。加えて、バスク語というこの地域のみで使われている言語があるのですが、皆スペイン語とのバイリンガルなので、まずはスペイン語を優先して勉強しておきましょう。現在、ピソという日本で言うシェアハウスのような形でアパートの一室に住んでいるのですが、そこでのルームメイトが皆スペイン人で、会話は常にスペイン語でしています（英語で伝えたり、それでもわからないときは翻訳アプリを使います）。おそらく想定以上にスペイン語ライフが待っているの、なるべく会話力重視で練習を重ねましょう。ただ、Erasmusの学生（EU内の交換留学生）にはスペイン語を話せない学生も多くいて、それでもなんとか生きていけているので、過度な心配も無用です。とりあえず、友達ができればなんとかなります。もしバスク大に関心があるならば、千葉大学にスペインやバスクから留学している学生に積極的にコンタクトをとっておきましょう。家探しの件もそうですが、渡航前から現地の友達が何人か既にいたのは本当に心の支えになりました。

おそらくどれだけ準備しようとしても予期せぬ困難が待っているのが長期留学だと思います。なので、私の報告書やそのほかネットの情報などを参考に準備はしつつ、現地でトラブルが発生すれば意地でなんとかするぞ！くらいの気概でいいです。それらを乗り越えたとき、笑い話というか日本帰国後の話のネタが増えることになります。ということでこれからも全力で楽しみながら学んでいきます。

海外派遣留学プログラム報告書 (報告期間：2022/09/27 ～2022/12/05)

1. 勉学の状況

回を追うごとに建築学部の授業の難易度がみるみる上がっていき、実践的な能力を求められるようにいきました。千葉大学では国際教養学部所属であったこともあり、正直なところスキル面での至らない点を日に日に実感するようになってきました。ただ、幸いなことに、授業がチームで行うものでかつメンバーも親切な人たちだったので、わからない点を丁寧に教えてもらいながら、得意不得意で上手く分担して、なんとか乗り切っています。また、授業で何度かビルバオにワークショップで出かけています。半分観光半分勉強気分でできて、楽しく学んでいます。英語開講の建築学部の授業を履修していますが、外に出かける際はスペイン語まみれになることが多いです（ガイドしてくれる人や学会発表者がスペイン語で話したり、資料が大体スペイン語で書かれたりしました）が、助け合いでなんとか理解に励んでいます。

次に語学のコースに関してです。スペイン語の方は、建築学部の授業との兼ね合いもあり、必ずしも毎回出席できなくなりましたが、先生やクラスメイトとの関係は良好で、日常会話ではあまり使わないような表現についても学べており、満足しています。バスク語は、とにかく語彙が難関ですが（基本的にスペイン語を含む印欧語族と全く異なるため）、やはり文法に関しては多少なりとも日本語との共通点があるため、他の学生よりは少し楽に学んでいる気はします。また、教員はバスク大学教育学部の学生のため、距離感も近く、とてもアットホームでよりやりやすい雰囲気です。

2. 生活の状況

生活において何か困る、といったことはほとんどなくなりました。道を歩いていたらスペイン人にスペイン語で道を尋ねられることも何度かあり、現地人っぽい雰囲気が出てきたのかも、心の中で少し嬉しく感じています。雰囲気の話で言うと、なぜか自分は「日本人」と第一印象で思われることが圧倒的に多いです（いきなり日本語で挨拶されたり、日本人と聞かれたりです）。他の日本人の知り合いの方々話を聞き限りだとやはり中国人もしくは韓国人（日本人よりも多くの在住者がいます）に間違われる可能性が高らしく、本当に不思議です。

また、前回書き忘れたのですが、ESN(Erasmus Student Network)という留学生支援団体があり（Donostiに限らずスペイン各地、EU圏の至る所にあるはずですが）、この団体が主催するイベントが気軽に参加できてかつ知り合いを増やす良い機会になるため、よく出かけています。おすすめです。

加えて、とりわけ10月-11月は来客が多かったです。色々あって知り合ったValcanusというプログラム（理系学生向けインターンシップ）でEU圏に来ている日本人の知り合い、留学生の友達の兄弟、ルームメイトの母親、同じ学部の同期（世界一周中に寄ってくれました）と、ほとんど毎週末誰かしらが遊びに来ていて、退屈しない毎日でした（その分課題の時間を割くことに苦労しましたが…）。

最後に、Donostiといえばということで、久保建英選手の所属する”Real Sociedad”の試合もついに観に行きました。圧巻です。留学前から元々好きなクラブで、そんなクラブに偶然自分が留学するのと同じタイミングで移籍した久保選手…！ファンの方々も熱狂的かつ優しい方々が多く、とにかくクラブ愛に拍車がかかっています。Aupa Real!!

